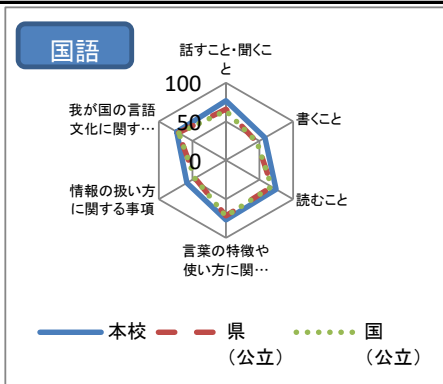


令和4年度全国学力・学習状況調査 指導方法等の改善計画について【国語】

海田町立海田西 中学校

本年度正答率(本校75%, 県69%, 国69%)

本年度の結果について



「我が国の言語文化に関する事項や言葉の特徴や使い方に関する事項」において苦手な生徒が多い傾向がある。今回はどの分野も県平均、全国平均を上回る結果を得ることができたが、それぞれの問題を見ていくと、言葉に関する問題の正答率が低いことがわかる。「正しい言葉の意味を選ぶ問題」では、正答率が79.7%であり、全国平均、県平均と比べるとそれぞれ3.5%、4.3%低かった。また、「行書の特徴を踏まえた書き方についての問い」では40.6%の正答率であり、県平均を上回り、全国平均と同じ値ではあるが、半数以上の生徒が間違った選択肢を選んでいるところに課題があると思われる。また、表現技法の名称の正答率も53.6%と約半数が間違った選択肢を選んでいるところに課題がある。

- 語彙そのものが不足している、また文脈から正しい意味が読み取れないところに課題がある。
- 行書の主な特徴とそれを表す言葉の関係(筆順の変化、省略の意味)を正しく理解できていないところに課題がある。
- 表現技法の名称が正しく覚えられていないところに課題がある。

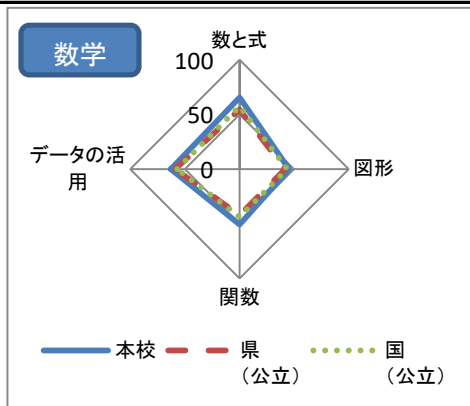
重点課題
【課題1】文脈から正しい意味が読み取れない。「『途方に暮れた』の意味として適切なものを選択する問題」(誤答率20.3%)
【課題2】行書の特徴や表現技法の名称が正しく理解できていない。「行書の特徴を踏まえた書き方で適切なものを選択する問題」(誤答率49.4%)「『陽炎みたいに揺らめきながら』に使われている表現技法の名称を答える問題」(誤答率43.4%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)	全校での目標(キャッチフレーズ)
語彙を増やすため、数多くの作品を読む機会をつくる。授業で読む作品の中でことわざ、慣用句の意味にも注目させる。週末課題等でことわざ・慣用句を集めさせて授業で紹介し合う。	めざせ語彙力ナンバー1！ ～ことわざ・慣用句を集めよう～
行書の特徴を意識しながら作品作りをする。表現技法を見つけてクイズにしてその名称とともにみんなで見える。	いろいろな表現技法に挑戦！ ～クイズで表現技法を覚えよう～

令和5年度 全国学力・学習状況調査 数値目標
○話すこと・聞くこと ○読むこと ○言葉の特徴や使い方に関する事項 ○我が国の言語文化に関する事項 75%
○書くこと ○情報の扱い方にに関する事項 60%

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
学年・方法	週末課題で慣用句プリント配布 HR学習でテスト各自で集めて紹介	学力調査問題(中2)	週末課題で慣用句プリント配布 HR学習でテスト各自で集めて紹介	学力調査問題(中2) 期末テスト(中3)		過去問演習	学力調査過去問題(中2)
目標値		65%		60%・75%			75%
実施後数値							
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
学年・方法	行書の特徴を意識して作品を書く。 表現技法の確認	学力調査問題(中2)	行書の特徴を意識して作品を書く。 表現技法の確認	学力調査問題(中2) 期末テスト(中3)		過去問演習	学力調査過去問題(中2)
目標値		50%		60%・75%			70%
実施後数値							

本年度正答率(本校57%, 県50%, 国51.4%)	本年度の結果について
-----------------------------	------------



一般的に図形及び関数を苦手とする生徒が多い傾向にある。今回、領域「数と式は、65.5%」、「図形は、45.4%」、「関数は、50.7%」、「データ活用は、62.8%」という結果であった。この結果から、学習してきた基礎的・基本的な内容は、全体的に定着しつつあると思われる。しかし、数学用語の定着が浅いことから、解法と最終的な解答に結び付いていない生徒もいた。また、計算以外の文章を読み取る力も低く、特に「文字式を使って説明する」や「図形の証明」などは、解き進める手順の理解が深まっていないと思われる。

○例えば、「素因数分解」や「変化の割合」の数学用語と解の導き方が一致していないことから、正解を導き出せない。

○少し長い文章を読み進めていくことを苦手とする生徒が多く、最後まで文章を読み取ろうとしていない。そのことから、問題文にある情報(ヒント)を手がかりにすることができないため、諦めてしまっている。また、証明する問題については、手順と方法の定着が弱いため、書き方そのものがわからない生徒もいる。

重点課題	重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)	全校での目標(キャッチフレーズ)
<p>【課題1】 数学用語と解の導き方が一致していない。「42を素因数分解する問題の 誤答率47.9%, 無解答率4.3%(通過率47.8%)」「変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ問題の 誤答率60.9%(通過率39.1%)」</p> <p>【課題2】 問題文の意味を読み取ることが難しく、何を聞かれているのか、どのように答えればよいかわからない生徒が多い。「ある偶数との和が4の倍数になる数について、予想した事柄を表現する問題の 誤答率53.6%, 無解答率2.9%(通過率43.5%)」図形の証明についても同様である。</p>	<p>数学用語の意味を繰り返し想起させながら、解法と一致させることを目的として、授業初めには、確認しながら取組を進める。</p> <p>文章を読んで何を求めるのかを確認しながら、問題に取り組ませる。また、解法の手順と方法が定着するように、繰り返し学習を取り入れて演習させる。</p>	<p>目指そう表現の達人! ～数学用語を使って説明しよう～</p> <p>読み取り王になろう! ～最初に求めることを見つけよう～</p>

令和5年度 全国学力・ 学習状況調査 数値目標
数と式 70% 図形 60% 関数 60% データ活用 65%

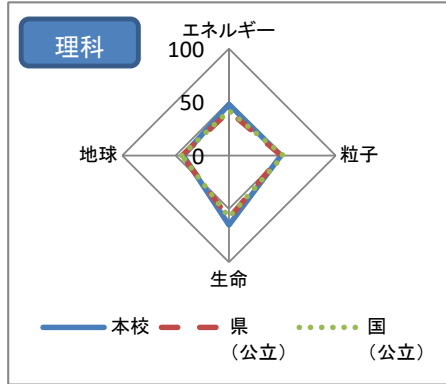
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
学年・方法	・1次関数(中2) 変化の割合・傾き・切片の数学用語を使った授業展開(学力調査類似問題)と振り返り	・図形の証明(中2) 合同条件、証明の流れの中で使える図形の性質を意識した授業展開(学力調査類似問題)	・比例反比例(中1) 比例定数、対応表、式、グラフを関連付けた授業展開(学力調査類似問題)と振り返り	・三角形・四角形(中2) 結論、仮定の読み取りと、条件の選択を意識して結論を導く授業展開(学力調査類似問題)	・空間図形(中1) 立体の表面積・体積を求める方法と必要な情報を読み取る授業展開(学力調査類似問題)	・確率データ活用(中2) 代表値、ヒストグラム、箱ひげ図を比較した授業展開(学力調査類似問題)	全国学力過去問(中2)
目標値	60%	60%	70%	60%	70%	70%	65%
実施後数値							
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
学年・方法	使ってみよう! 学力調査問題(中2)	使ってみよう! 学力調査問題(中2)	使ってみよう! 学力調査問題(中1)	使ってみよう! 学力調査問題(中2)	使ってみよう! 学力調査問題(中1)	使ってみよう! 学力調査問題(中2)	
目標値	60%	60%	70%	60%	70%	70%	
実施後数値							

令和4年度全国学力・学習状況調査 指導方法等の改善計画について【理科】

海田町立海田西 中学校

本年度正答率(本校52%, 県49%, 国49.3%)

本年度の結果について



各領域の平均正答率はエネルギーが47.8%, 粒子が48.7%, 生命が65.2%, 地球が42.8%であった。エネルギーと生命の領域は全国や広島県と比べて平均正答率は高かったが、粒子と地球の領域では全国や広島県と比べて平均正答率は低かった。実験の条件制御に関する問題や記述形式の問題は、全国や広島県と比べて平均正答率が高かった。しかし、学習したことを身近な例などに活用して考えることや、図やグラフ、会話文などから様々な情報を整理し、分析し、解釈し、考察につなげていくことに課題が見られる。また、力の表し方や気象に関する問題などの直接目に見えないものに大きな課題が見られる。少し長い問題文の内容を正確に読み取ることも課題が見られる。

- 学習したことを身近な例などに活用することに課題がある。
- 図やグラフ、会話文などから様々な情報を整理し、分析し、解釈し、考察につなげていくことに課題がある。
- 直接目に見えないものを扱う分野に大きな課題がある。

重点課題
<p>【課題1】知識及び技能を身近な事象に関して活用できていない。液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を選択する問題の誤答率78.3%, おもりにたらく重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する問題の誤答率89.9%</p> <p>【課題2】図やグラフ、会話文の内容を適切に分析や解釈し考察する力が弱い。上空の気象現象を地上の観測データを用いて推論した考察の妥当性について判断する問題の誤答率79.7%。水素を燃料として使う仕組みの例の全体をはたらかせるおおもとを指摘する問題の誤答率82.6%など</p>

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)	全校での目標(キャッチフレーズ)
<p>導入を中心に身近な事象・現象を積極的に紹介する。学習したことを身近な例に当てはめて考えさせる。振り返りで生徒に活用例について聞き、知識を広める。</p>	<p>気付けば、へえ～！自分の見える世界が広がる身近な理科</p>
<p>調べたい事柄に関しての仮説を立て、実験・観察を行うとともに、結果の分析や解釈の仕方について必要な指導しながら、考察をさせる。定期試験などで会話文などの問題に取り組みさせる。</p>	<p>落ち着いた読み取る ～理科の見方・考え方を駆使して～</p>

令和5年度 全国学力・学習状況調査 数値目標
<p>エネルギー 55%</p> <p>粒子 55%</p> <p>生命 70%</p> <p>地球 55%</p>

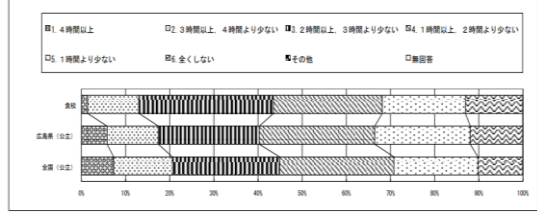
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
学年・方法	全学年・授業内で身近な事象・現象を紹介 1, 2年・HR学習での問題演習	全学年・授業内で身近な事象・現象を紹介 1, 2年・HR学習での問題演習	全学年・授業内で身近な事象・現象を紹介 1, 2年・HR学習での問題演習	全学年・授業内で身近な事象・現象を紹介 1, 2年・HR学習での問題演習	全学年・授業内で身近な事象・現象を紹介 1, 2年・HR学習での問題演習	全学年・授業内で身近な事象・現象を紹介 1, 2年・HR学習での問題演習	2年(新3年)・これまでのHR学習で扱ったものの類題
目標値	30%	35%	40%	45%	50%	55%	60%
実施後数値							
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
学年・方法	全学年・探究の過程を意識した授業展開 1, 2年・全国学力・学習状況調査等類題	全学年・探究の過程を意識した授業展開 1, 2年・全国学力・学習状況調査等類題	全学年・探究の過程を意識した授業展開 1, 2年・期末試験	全学年・探究の過程を意識した授業展開 1, 2年・全国学力・学習状況調査等類題	全学年・探究の過程を意識した授業展開 1, 2年・全国学力・学習状況調査等類題	全学年・探究の過程を意識した授業展開 1, 2年・学年末試験	
目標値			40%			50%	
実施後数値							

令和4年度指導方法等の改善計画について【質問紙】

(全国学力・学習状況調査 質問紙)

(1)生活・学習

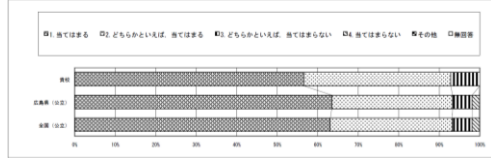
質問番号	質問事項										
(22)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習室で勉強している時間や家庭教師の先生に教えている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
高校	1.4	11.6	20.4	24.6	18.8	13.0				6.0	0.0
広島県（仮定）	5.8	11.6	22.8	26.1	21.6	11.9				6.0	0.0
全国（仮定）	7.3	13.3	24.3	25.9	19.0	10.2				6.0	0.0



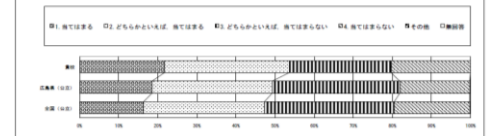
児童生徒の回答についての課題(現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状値からの伸び
学校が休みの日における1日当たりの家庭学習の時間が全くない生徒が13.0%と全国平均と比べて2.8ポイント多い。1時間未満と合わせると31.8%の生徒が家庭での勉強時間が極端に少ない状況にある。	継続して取り組んでいる家庭学習ノートをホームルーム学習と結び、意味のある学習にすることで学習する動機をより実感できるようにする。また、特に家庭学習時間が確保できていない生徒については家庭との連携を密にし、家庭での協力を得る。	3学年	学校が休みの日における1日当たりの家庭学習時間が1時間未満である生徒の割合を15%以下	質問紙調査	令和4年12月		

(2)教科

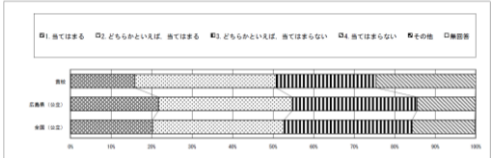
質問番号	質問事項										
(80)	国語の勉強は大切だと思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
高校	26.3	20.8	1.4	51.0						0.0	0.0
広島県（仮定）	33.1	20.1	1.0	45.8						0.0	0.0
全国（仮定）	37.1	20.1	1.0	41.8						0.0	0.0



質問番号	質問事項										
(87)	数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
高校	13.0	35.7	30.0	21.3						0.0	0.0
広島県（仮定）	10.8	30.0	35.2	24.0						0.0	0.0
全国（仮定）	10.0	30.0	35.2	24.8						0.0	0.0



質問番号	質問事項										
(84)	理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
高校	11.1	21.9	21.6	45.4						0.0	0.0
広島県（仮定）	11.7	22.0	20.0	46.3						0.0	0.0
全国（仮定）	10.1	21.0	21.0	47.9						0.0	0.0



	児童生徒の回答についての課題(現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状値からの伸び
国語	国語の勉強は大切だと思っているという問いにおいて当てはまると答えた生徒が56.5%と全国平均と比べて6.6ポイント低い状況にある。	授業で学んだことが将来につながるよう意味のある学習にすることで大切だと思えるようにしていく。	3学年	65%	質問紙調査	令和4年12月		
数学	数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますかに対して、20.3%の生徒が当てはまらない回答している。これは、全国平均と比べて1ポイント多く、学習したことが生活に結び付く実感が少ないと考えられる。	授業展開の中で、最終的に生活に結び付く課題を設定し、既習事項を利用して考え、課題解決に向かう時間を設定する。	2学年	数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますかに対する回答、当てはまらない生徒の割合を15%以下	質問紙調査	令和4年12月		
理科	理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますかという質問事項において、当てはまらないと答えた生徒が24.6%と全国平均と比べて9.1%高い状況である。	導入を中心に身近な事物・現象を積極的に紹介する。学習したことを身近な例に当てはめて考えさせる。振り返りで生徒に活用例について聞き、知識を広める。	3年	15%	質問紙調査	12月		